

# 会 報

＜第371号＞

次代を築くヒューマンネットワーク

一般社団法人兵庫県建築会



発行日：平成28年9月1日

- 目次 ◎ ご挨拶 『ニュータウン再生について』  
副会長（兵庫県住宅供給公社理事長） 大町 勝 …… 1～2頁
- ◎ 会員レポート『歴史、文化、産業遺産を活かした欧州のまちづくり』（第4回）  
神鋼不動産（株）常任顧問 川端 宏幸氏 …… 3～4頁
- ◎ 交流のひろば『鉄道模型のジオラマ（レイアウト）づくり』  
兵庫県県土整備部住宅建築局建築指導課  
副課長 長谷川 和正氏 …… 4～5頁
- ◎ お知らせ …… 5～6頁
- ◎ 広報コーナー 兵庫県公館改修記念講演（創立70周年記念講演）  
兵庫県住宅再建共済制度 …… 7～9頁

## ご挨拶 『ニュータウン再生について』 副会長 大町 勝 (兵庫県住宅供給公社理事長)

今年は残暑がひとときわ厳しいですが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。



今年5月の総会で副会長を拝命してから初めての寄稿となります。昨年3月に兵庫県を退職するまで37年間、継続して建築・まちづくり系の業務に就き、現在も住宅関係の組織に居ますので、仕事上でもお世話になっている会員の方も多いと思います。今後とも引き続き、お付き合いのほど宜しくお願いいたします。

さて、ここからは、私の役人時代から現在に至るまで関わり続けている仕事、ニュータウンの再生、特に神戸市、明石市に跨る明舞団地の再生事業について簡単に紹介させていただきます。

所謂ニュータウンの大部分は高度成長期の住宅不足の時代、昭和30～40年代に計画されたものです。全国的には大阪の千里や東京の多摩が有名ですが、兵庫県内にも西神や北摂三田など、それらに匹敵する大規模なニュータウンがあります。明舞団地も“団地”という名称ですが、千里と同じ時期、同じ手法で造られた、県内で最も古いニュータウンで、街開きからもう50年が経過しました。



明舞センター開店（昭和42年）

他のニュータウンも同様ですが、街開き当時の明舞団地は、徒歩圏に配置された公園や学校、買い回りに不自由のない商業施設、整備されたバス路線、小さいけれども住みやすいDK形式の集合住宅、整然とした町並みの戸建住宅など、周辺の市街地とは一線を画する憧れの住宅地でした。大部分が新婚世帯や子育て世帯で、学校には子供たちが溢れ、新設された JR 朝霧駅には通勤する父親たちが溢れていました。



当時の団地生活（昭和40年代）

時代は変遷し、明舞を離れた子供たちは新たな地で生活の基盤をつくりました。団地に残った親世代は高齢化し、多くは夫婦のみ若しくは独居で

の生活を送っています。当たり前の話ですが、一斉に建設された住宅や商業施設は一斉に老朽化し、一斉に入居した同世代の人々は一斉に高齢化します。現在、明舞団地の高齢化率は40%を越えています。

兵庫県が明舞団地再生の取組みを始めたのは15年以上も前になります。私が県の住宅部局で担当していました。そもそも何故、県が明舞団地という一部地域の再生に取組む必要があるのか？については、①開発当時、莫大な投資で整備された道路、公園など高水準のインフラを無駄にする手はない、②明舞団地で起こっている事象は、将来一般の市街地でも起こり得る事象で、先行的な取組みとして意味がある、という2点で整理しましたが、実際のところは、当初の開発主体である県と公社が再生の際にも面倒みますよ、というのが一番わかり易いかもしれません。

ニュータウン再生といっても、その内容はハードからソフトに至るまで多岐に渡り、明舞団地でも様々な取組みを進めています。

ハード整備については、現在、県が県営住宅の建替えを進めており、半分以上の県住が新しくなりました。残念ながら、URは賃貸住宅の建替えをする気はなく、明舞の立地では分譲マンション建替えが実現する環境にありません。家賃が一番安い住宅が一番立派になっているという、少々イビツな状況になっています。



県営松ヶ丘住宅

また、公社はセンター施設を所有、運営していますので、その建替え、リノベーションを進めてきました。この7月には第Ⅱ期の建替えとして、神戸市側の商業施設整備の事業コンペを実施し、建設・運営をする民間事業者を決定したところです。



明舞センターⅡ期計画図

近年、駅舎内や高架下の商業施設運営から郊外への事業展開を図っている JR 西日本不動産開発(株)に事業者となっていただきます。

ソフト施策については、それぞれ様々な取組みをしています。思いついたことはとりあえずやってみるという姿勢で進めています、そのいくつかをご紹介します。

①高齢者支援を行う NPO が配食サービスやコミュニティレストランをもう10年以上も運営しています。独居の高齢男性等を対象とした料理教室なども開いています。



「NPOひまわり」と男性料理教室

②県営住宅での学生シェアハウス。近隣大学の学生が県営住宅に入居、自治会活動などに参加してもらっています。

③明舞まちづくり委員会の設置。住民、県、公社、UR、大学、NPO など関係者が集まって明舞再生の方向性を検討しています。

④住替え促進のモデル事業。戸建住宅の高齢世帯がサービス付高齢者住宅等へ、子育て世帯が空いた戸建住宅への住替えを促進する意図ですが、これはなかなか難しい、上手く動きません。若年世帯の導入が明舞団地の一番の課題です。

高度成長に造成、供給されたニュータウンや民間開発の戸建住宅団地は県内各地に存在します。今後ますます人口減少局面に入っていくなか、例えば50年先にどれだけのニュータウン、住宅団地が健全な姿で残っているのか。住宅地として存在し得なくなるニュータウンは必ず出てきます。乱暴な言い方ですが、人口が増えた時代に自然を壊して住宅地にしたのですから、人口が減ったときには自然にお返しすべき住宅地もあるということでしょう。

50年後にも生き残るニュータウンと生き残れないニュータウン。たぶん、そのボーダーラインにいる明舞団地が将来とも元気な“普通の街”であり続けるために、今、関係者の皆さんが頑張っているところです。会員の皆様方にも、機会があれば明舞団地を覗いていただき、その変わっていく様を見届けていただければと思っています。

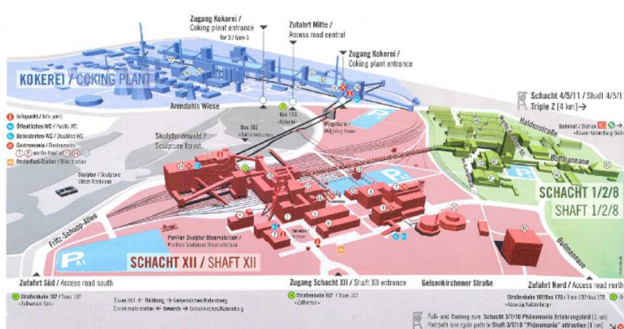
会員寄稿  
『歴史、文化、産業遺産を活かした  
欧州のまちづくり』（第4回）

神鋼不動産（株） 常任顧問 川端 宏幸氏

前回に引き続き、エムシャーパーク構想の中心であるエッセン市をご紹介します。

エッセン（ドイツ、58万人）

ゲルゼンキルヘンの西隣りのエッセン市は、鉄鋼会社ティッユセン・グループの本社がある。そのエッセン市に IBA・エムシャーパークの中心テーマである歴史的遺産としての産業施設の整備保全の代表例として、「関税同盟第 12 立坑」がある。



▲ 赤色部分が「第 12 立坑」 緑色部分は「1/2/8 立坑」 青色部分は精錬工場

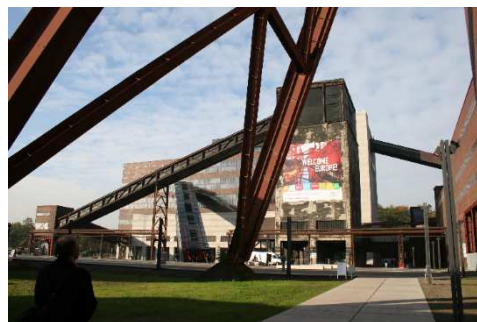
1986 年に閉鎖された「関税同盟第 12 立坑」の保存には賛否両論があったが、IBA のプロジェクトの一環として、エッセン市がノルトライン・ヴェストファーレン州開発公社と共同で雇用創出機関「バウヒュッテ」を創設し、炭坑の全施設を保全、改修、再利用することとなった。



▲ 正門の正面にそびえる石炭採掘施設

「関税同盟第 12 立坑」は、1930 年、エッセン北部に分散していた関税同盟炭鉱の石炭採掘施設を

統合する目的でつくられたもので、開設当初は世界最大かつ最新の採炭施設であった。同炭坑の施設は、今日、ヨーロッパでも有数の建築・産業技術史上の貴重な遺産となっている。同炭鉱は、近代産業技術の「規模拡大による革新」がもたらした代表例でもある。新施設の導入によって、それまで日産 3,000 トンの石炭採掘量が 12,000 トンに増大したという。



▲ 立坑の足下から石炭洗浄棟（大学施設）をみる

第 12 立坑は、1929 年に建築家シュップとクレマーがエンジニアと緊密な協力の下に建造したもので、細部まで考え抜かれたその構造は、その後の産業建築の大きな影響を与えた。

この「関税同盟第 12 立坑」保全・再利用プロジェクトは、バウヒュッテが施工するが、このプロジェクトは土地ファンドを用いた州開発公社の遊休工鉱業用地取得が前提になっており、プロジェクト全体は、EU 欧州連合、連邦、州、エッセン市の資金で賄われている。また、その一部は、エッセン市の雇用創出プロジェクトとして実施されており、約 100 名の長期失業者が建物の改修を行いつつ、職業訓練を受けている。

修復された施設では、産業史資料収集・研究センター、民間アトリエが業務を行っており、平行して大規模空間を活かしたアートスペース、ギャラリー、リハーサルホール、大会議室等では、適時、催し物が行われている。1994 年のエッセン市と IBA エムシャーパーク社主催の国際シンポジウムもこの施設を活用して行われた。



▲ 旧福利厚生施設もオフィス等に転用

炭鉱施設は一般に公開されており、周辺地域から訪れた多くの市民は、産業技術史上の側面のみならず、再利用された施設にも大きな関心を寄せている。2001年に「関税同盟第12立坑」は、世界遺産(産業遺産)に登録された。



▲ 工具もオブジェとして再利用



▲ 森の中にある工場のイメージ

さらに、エッセン市立劇場の新劇場及び周辺自治体の文化センターの新設やノルトライン・ヴェストファーレン州デザインセンター、エッセン大学デザイン科の移転も順次、進められている。

しかしながら、現時点ですべての個別建造物の利用計画ができていくわけではなく、必要に応じて順次、利用計画と改修計画が立てられ工事が進められることになっている。このようなプロセスの中で、全体改修の企画と建築管理をベル・アンド・クラーベル事務所が行っている。個別の設計では州デザインセンター向けの改修にはイギリスのフォスター・アンド・パートナーが、またエッセン大学デザイン科の建築には日本のSANAA(妹島和世、西沢立衛の共立)が起用された。



▲ 妹島和世が設計した大学 (2006年開学)

次回はアムステルダムをご紹介します予定です。

## 交流のひろば

### 『鉄道模型のジオラマ (レイアウト) づくり』

兵庫県建築指導課 副課長 長谷川 和正

私は、鉄道と古い町並み・産業遺産巡りが趣味ですが、このたび、かつての上司の谷専務理事に貴重な機会をいただきましたので、これらの趣味を活かした鉄道模型のジオラマ (レイアウト) のご紹介をさせていただきます。

私は、ジオラマのおもしろさは、もう一度見たい記憶の中の懐かしい風景や、写真でしか見たことのない、既に失われた風景等を自分のイメージを合成して思い通りに立体的に表現できる場所にあると思っています。

サイズは、家のスペースの関係で150分の1として、ベニヤ板に木枠を打付けた、直線線路のセクション(120cm×45cm)とU字型の曲線線路のセクション(135cm×45cm)を風景がうまく繋がるように組み合わせる分割式と呼ばれる方式としました。

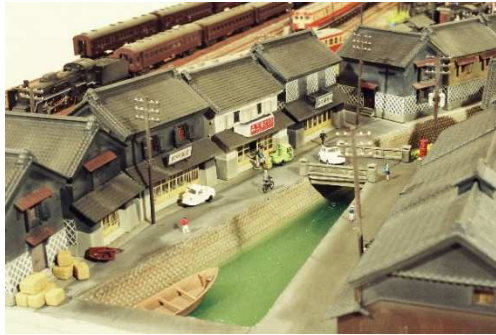
組立てると複線の線路が楕円形に繋がって複線運転が可能です。なお、時代設定は昭和30年代後半～40年代前半です。(写真は6台を組立てた状態で、普段は分割して棚に保管しております。)



直線のセクションは増設可能なので、一台を約2年のペースで、8台を15年で製作したところ、コンペに入選し、専門誌にも掲載いただきました。

ここでは、紙面の関係で、そのうち3つのセクションのハイライトの情景をご紹介します。

まずは、最もお気に入りの運河沿いの関東地方の重厚な蔵造り商家の町並みです。蔵造り商家のほか、ミゼット等の小物類にも凝ってみました。



次は、港近くの運河沿いの煉瓦倉庫への貨物の引込み線がある、ひなびた駅の情景です。左側には、農業倉庫への草むした引込み線もあります。



最後は、漁港に面して三連の蔵を持った海産物問屋の情景です。線路の向こうの家には珧瑯看板や洗濯物等も配して生活感を出してみました。



なお、既に収納している棚が一杯のため、製作は休眠状態です。しかしながら、ネタになりそうな写真や気に入った建物等の材料は集め続けており、退職後にでも、いつかスペースを確保して、製作を再開できることを夢見ております。

#### 事務局より

久しぶりの「交流のひろば」です。長谷川氏からは、年賀状でよく作品を紹介してくれていました。ノスタルジックなまちなみは、ほのぼのと味わいがあり、建築指導課に来られて何時か紹介の機会があればと思っていました。賞は「鉄道模型趣味」の「TMSレイアウトコンペ」ということです。同好の方、お声がけ下さい。

## お知らせ

### ◎行事ご案内

#### ○第450回月例会

テーマ：『緊急報告：熊本地震の現場』  
『ご存知ですか？介護現場の今！』

講師：前（社福）きらく園事務長  
高橋 守雄氏

日程：平成28年9月8日（木）

12:00～14:00

会場：神戸三宮東急REIホテル

**ご案内中です。まだ受付できますのでご参加よろしくお願ひします。**

#### ○住生活月間イベント

##### 『兵庫・神戸 みんなの住まい展』

日程：平成28年10月15日（土）

～16日（日）

会場：神戸ハーバーランドスペースシアター外

**当会はイベント実行委員として事業に参画しますので、会員の皆様には是非会場へお運び下さい。**

### 創立70周年記念講演会 (第451回月例会)

日程：平成28年10月13日（木）

13:30～16:00

会場：兵庫県公館

(神戸市中央区下山手通4丁目4-1)

#### 第一部 (13:30～14:45)

講演会：『建築がまちを変える』

講師：兵庫県立美術館館長 蓑 豊氏

#### 第二部 (15:00～16:00)

公館改修工事説明・見学会

**ご案内中です。ご参加をよろしくお願ひします。**

### 創立70周年記念研修交流会 第153回建築会ゴルフコンペ

日程：平成28年10月27日（木）

9:03～アウト・インスタート各3組

会場：城山ゴルフ倶楽部

(加古川市志方町野尻808-1)

競技：18ホールストロークプレー

(ダブルペリア)

**賞品、記念品を多数ご用意してご案内中です。ご参加よろしくお願ひします。**

## ○ 平成28年度見学研修会のご案内

日程：平成28年11月17日（木）

見学先：京都市

### ① 京都鉄道博物館

「地域と歩む鉄道文化拠点」を基本コンセプトに平成28年4月開業したばかりで、鉄道の歴史を通して日本の近代化のあゆみが体感できる鉄道の総合博物館です。

<https://www.westjr.co.jp/railroad/fan/kyotorailwaymuseum/>

### ② 世界遺産「二条城」

徳川家康が京都御所の守護、上洛の宿泊所として造営し、家光が伏見城の遺構を移築するなどして、1626年に完成したものです。絵画、彫刻など桃山時代様式の全貌が垣間見ることができます。

<http://www2.city.kyoto.lg.jp/bunshi/nijojjo/>

### ③ 南禅寺：臨済宗南禅寺派大本山

三門は高さ22m、「天下龍門」と呼ばれ日本三大門の一つ。楼上に登り絶景を楽しめます。

水路閣は1888年建設。全長93m、美しいアーチを描き、現在も疎水として活用されています。



<http://nanzen.net/>

### ④ 昼食：南禅寺前の老舗「順正」にて名物のゆどうふ料理

近くでありながら、有名観光地でありながら意外と訪れる機会が少ないのでは？

昨年に続いて、そんな名所旧跡のご案内です。

もちろん紅葉も見頃の時期です。

この機会に、新設された鉄道博物館、永らくご無沙汰の二条城、南禅寺など訪れて見ませんか。

昼食は国の登録有形文化財「順正書院」でのゆどうふ料理をお愉しみてください。

近日にはご案内を差し上げますので、ご参加よろしくお祈いします。

## ○ 海外研修のご案内（平成29年度実施）

### 創立70周年記念海外研修（案） ～ ART TRIP フィレンツェ物語 ～

2016年9月1日

企画：見学研修委員長 石田 邦夫

70周年記念の海外研修を平成29年9月～10月に実施することで計画を進めています。

天上のない美術館のフィレンツェに暮らすようにして、美術館を巡り、伝統工芸の工房見学やトスカナの小さな街やワイナリーを訪ね、そして美味しい食事を共に楽しむ旅を企画しました。

これから詳細を旅行会社と調整していくため、皆様のご意見をお聞きしたいと思います。

つきましては、この会報発信と同時に**意向調査書**をお送りしていますので、是非ご意見をお寄せください。

旅程 2017年9月25日（月）  
～10月3日（火）

【 フィレンツェに7連泊 】

歴史と文化の街イタリア“フィレンツェ”  
は次でご覧ください。

<http://matome.naver.jp/odai/2141438586638005301>

<http://allabout.co.jp/gm/gc/15150/>

## ○事務局だより

今年の夏は異常な暑さとなりました。ラニーニャ現象の影響と思われるが、この暑い夏に地球の裏側からの熱戦に日本列島が更にヒートアップさせられました。女子レスリング、バドミントン、体操個人総合の最後の々大逆転劇には感動させられました。男子リレー100m×4は驚きでした。

日頃これほど釘付けになって毎日TVを見ることはまずありませんが、この筋書きのないドラマの結末は、日頃の鍛錬の賜物以外何ものでもありません。4年先は大変楽しみになりました。後は、施設建設や運営計画をしっかりと進めてもらわないといけませんね。

7月以来多くのご案内をしてきましたが、その本番が9月から順次始まります。とにかく事務局の暑い夏はまだ々続くようです。70周年記念事業はじめ行事ご協力をよろしくお祈いします。

事務局：谷 純夫、石井滝実子  
電話：078-996-2851  
FAX：078-996-2852  
Email：[archit-k@axel.ocn.ne.jp](mailto:archit-k@axel.ocn.ne.jp)

兵庫・神戸 みんなの住まい展 協賛イベント

参加  
無料

# 歴史と文化の香る 兵庫県公館改修記念講演・見学会

広 報 コ ー ナ ー



兵庫県公館は、明治35年(1902)年に兵庫県本庁舎として建設された歴史的な重要建造物です。

特に昭和60年(1985)年に、迎賓館と県政資料館を併せ持つ兵庫県公館として整備されてからは、阪神・淡路大震災を乗り越え、賓客の接遇や式典利用だけでなく、兵庫ゆかりの芸術家たちによる作品を多数展示するなど県民の皆様大変親しまれています。

このたび、30年ぶりに屋根及び外壁の改修を終えた兵庫県公館において、阪神・淡路大震災からの「文化の復興」のシンボルとして開館した兵庫県立美術館の養館長による講演会とともに、公館改修工事の説明・見学会を実施します。

この講演・見学会は官民協力による震災復興を契機として創立され、阪神・淡路大震災の復興など兵庫県のみならず全国各地に貢献してきた一般社団法人兵庫県建築会創立70周年を記念し共催で開催します。

平成28年10月13日(木) 13:30~16:00

会場：兵庫県公館 第1会議室

定員：100名(先着順、定員になり次第締め切ります) 申込締切：平成28年9月9日

**【第一部】講演会 (13:30~14:45)**

講師：兵庫県立美術館 館長 養 豊 氏  
『建築がまちを変える』

**【第二部】公館改修工事説明・見学会 (15:00~16:00)**

説明：設計監理 兵庫県県土整備部住宅建築局営繕課  
左官工事監修 竹中大工道具館  
施工 株式会社柄谷工務店



主催 兵庫県／(一社)兵庫県建築会

後援 (一社)兵庫県建設業協会／(公社)兵庫県建築士会／(一社)兵庫県建築士事務所協会  
兵庫県建築設計監理協会／(公社)日本建築家協会近畿支部兵庫地域会

## 第一部 講演会 (13:30~14:45)

### 『建築がまちを変える』

優れた公共建築により街のイメージを一新し、優れた人材を集めることに成功したアメリカのコロンバスの事例を通じ、誇りを持てるまちづくりについて考える。

#### 兵庫県立美術館 養 豊 館長

1941 金沢市生まれ  
 1965 慶応義塾大学文学部卒業  
 1969~1971 カナダ・ロイヤルオンタリオ博物館東洋部学芸員  
 1976 ハーバード大学大学院美術史部博士課程終了、翌年、文学博士号取得  
 1976 カナダ・モントリオール美術館東洋部長  
 1977 アメリカ・インディアナポリス美術館東洋部長  
 1985 シカゴ美術館中国・日本美術部長、東洋部長  
 1995 大阪市立美術館館長、全国美術館会議会長  
 2004 金沢 21 世紀美術館館長  
 2010 兵庫県立美術館館長



『Sun Sister』 ヤブタガ 作  
 阪神・淡路大震災 20 年のモニュメントとして県立美術館に 2015 年設置

## 第二部 公館改修工事説明・見学会 (15:00~16:00)

明治 35 年に第 4 代目の兵庫県本庁舎として山口半六の設計により建設されたが、昭和 20 年の神戸大空襲により外壁だけ残し、内部はすべて焼失した。昭和 27 年に修復を終え昭和 58 年まで兵庫県南庁舎として使用された後、迎賓館として改築工事が行われた。約 2 年の工事を経て、昭和 60 年に現在の兵庫県公館として生まれ変わり、この度、30 年ぶりに屋根及び外壁の改修工事が行われた。



#### 〈アクセス〉

JR「元町駅」より徒歩 5 分  
 市営地下鉄「県庁前駅」東 2 番出口より南側正面玄関へ

#### 〔問い合わせ先〕

兵庫県 県土整備部まちづくり局 都市政策課  
 〒650-8567 神戸市中央区下山手通 5 丁目 10 番 1 号  
 TEL : 078-341-7711 (内線 4669)  
 FAX : 078-362-9487  
 MAIL : kendo\_toshi@pref.hyogo.lg.jp

## 参加申込書

〔歴史と文化の香る兵庫県公館改修記念講演・見学会〕

※参加ご希望の方は、必要事項をご記入の上、上記（問い合わせ先：都市政策課）まで FAX 又はメールでお申し込みください

ふりがな氏名		所属	
電話番号		FAX	
メールアドレス		参加内容 下記のどちらかをお選びください	
住所	〒	<input type="checkbox"/> 講演会・見学会共に参加 <input type="checkbox"/> 講演会のみ参加	



『兵庫県住宅再建共済制度』の詳細は次からご覧いただけます。  
 兵庫県住宅再建共済基金HP → <http://phoenix.jutakusaiken.jp/>

## フェニックス共済の概要

### 住宅再建共済制度

加入者	県内に住宅をお持ちの方
負担金	年額5,000円
対象	県内に存在する住宅
対象被害	地震、台風、水害等あらゆる自然災害
共済期間	毎年4月1日から1年間
給付金	給付対象 半壊以上で建築・購入・補修 600万円 全壊で補修 200万円 大規模半壊で補修 100万円 半壊で補修 50万円
給付金	給付対象 全壊で購入・補修 50万円 大規模半壊で購入・補修 35万円 半壊で購入・補修 25万円 床上浸水で購入・補修 15万円

### 家財再建共済制度

加入者	県内に住宅をお持ちの方
負担金	年額1,500円
対象	県内に存在する住宅にある家財
対象被害	地震、台風、水害等あらゆる自然災害
共済期間	毎年4月1日から1年間
給付金	給付対象 全壊で購入・補修 50万円 大規模半壊で購入・補修 35万円 半壊で購入・補修 25万円 床上浸水で購入・補修 15万円

### 一部損壊特約

加入者	住宅再建共済制度加入者のうち希望される方
負担金	年額500円(住宅再建共済負担金に追加)
対象被害	地震、台風、水害等あらゆる自然災害
共済期間	毎年4月1日から1年間
給付金	給付対象 一部損壊(損害割合10%以上20%未満で建築・購入・補修した場合) 25万円 一部損壊(損害割合10%以上20%未満で建築・購入・補修した場合) 10万円

### 下記宛てにお電話いただくか、この用紙に記入しFAXをお願いします。

☐ 加入したいので詳しく説明に来てほしい ( )月( )日( )曜日( )時頃

☐ 申込み用パンフレットを送ってほしい ( )部

(お名前) フリガナ \_\_\_\_\_

(ご住所) 〒 \_\_\_\_\_

TEL: \_\_\_\_\_ FAX: \_\_\_\_\_

兵庫県企画開発局防災企画課

〒078-362-9400 (平日9:00~17:00)

FAX078-362-9405



～兵庫県が提供する「住まい再建のしくみ」～

# フェニックス共済

兵庫県住宅再建共済制度

**1** 年5,000円で最大600万円

**2** 簡単な加入！迅速な給付！

**3** 他の保険・共済と関係なく加入・給付

県内に住宅をお持ちの方の

## 住宅再建共済制度

年額5,000円で

## 最大600万円の給付

家財再建共済制度

年額1,500円で

最大50万円の給付

住宅再建と家財再建

セット加入で年額6,000円

住宅再建共済制度(一部損壊特約)

年額500円で補修時等に25万円の給付

住宅再建共済制度(一部損壊特約)

年額500円で最大600万円

大規模半壊

半壊

一部損壊

フェニックス共済(兵庫県住宅再建共済制度)は、阪神・淡路大震災の教訓を踏まえ、兵庫県が創設して運営している制度です。

地震、豪雨など、自然災害で住宅が損壊したとき、再建を支援します。

そうだ フェニックスがあった